

第3回 アジア・アジアパラ競技大会に関する懇談会

記録

1 日時

2023年11月21日（火） 14時から15時10分まで

2 場所

名古屋市公館4階大会議室

3 出席者

奥野信宏（座長）	鮎京正訓	高橋義雄
谷本歩実	藤田紀昭	來田享子

（五十音順、敬称略）

4 議題

アジア・アジアパラ競技大会に関する提言 中間報告について

5 議事録

（1）あいさつ

愛知県
スポーツ局長

愛知県スポーツ局長の松井でございます。

本日は、御多忙の中、第3回アジア・アジアパラ競技大会に関する懇談会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃はアジア競技大会、それからアジアパラ競技大会の推進につきまして格別の御理解、御支援、御協力を賜りまして、この場をお借りして改めましてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、昨年11月から2回開催いたしました本懇談会でございますが、委員の先生方から、理念に込めるメッセージですとか理念の活用方法などについて、多方面からの貴重な御意見をいただきました。

1年前から続けていると、時間をたくさんかける方がいいとか、いろいろ変わってきましたので、性急にやらなくて、時間をかけたというところでいい面もあったかなと思います。

これからいろいろ議論も深まっていくかと思っておりますので、第3回でございますけれども、今回の懇談会では、これまでの議論を集約させていただきまして、事務局で先生方の御意見を伺いながら取りまとめた提言の中間報告について御審議いただくということでございます。さらに内容を深めていただければと思っております。

アジア競技大会及びアジアパラ競技大会についてでございますが、今年の9月から10月にかけて杭州で開催されました。私も行ってまいりました。大変すばらしい大会だなと思いました。多くの日本のアスリートの皆さん大変活躍されまして、多くのメダルも取るということで、や

っぱりスポーツの力はすごいなと思いました。

そして閉会式でございますけれども、フラッグハンドオーバーセレモニーということで、愛知・名古屋のPRもさせていただき、知事と名古屋市の副市長が大会旗をしっかり引き継いできたということでございます。そして、いよいよ私どもはその旗の重みを感じるということになってございました。

スポンサーの獲得を担うマーケティングですとか、パラ大会の開催都市契約、いろんなことをやってまいりましたけれども、これから大会の開催に向けた準備をさらにしっかりと進めていきたいと思っております。

委員の先生方におかれましては、本日も忌憚のない御意見、御助言といったものをいただきまして、大会の成功に向けまして、開催都市の発展にこの大会が活かされるような御提言をいただければと思っております。

本日はよろしくお願いいいたします。

名古屋市
企画調整監

皆さん、こんにちは。名古屋市企画調整監の武田でございます。

本日は、御多用のところ、この懇談会に御出席を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、中国での杭州大会、私も視察させていただきました。先ほどの局長様からの挨拶にもあったとおり、本当に素晴らしい大会といたしますか、国を挙げての大会だという印象を持ちました。地下鉄、町のインフラの整備、競技場の整備、ボランティア、開・閉会式のゴージャスな感じ、全てにわたって圧倒された思いでございます。また、中国の人の厚いおもてなしも感じた次第で、非常に感動いたしましたところでございます。

この杭州大会を引き継ぐという意味で、愛知・名古屋大会もしっかりと運営をしていかなければならないと考えております。

我々も機運醸成に努めておるところでございます。先週末も、高校生向けのイベントを開催いたしましたし、今後も、12月にはアジア大会1,000日前のイベント、1月にはアジアパラ大会の1,000日前イベントを開催して機運を盛り上げてまいりますので、引き続き御支援を賜ればと思っております。

また、中間報告が出ておりますので、本日は率直な御意見を賜りますことをお願いしまして、御挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいいたします

奥野座長

皆さん、こんにちは。大変お忙しいところを御苦労さまです。

本日、3回目でございますが、前2回の会では大変御熱心に議論いただきまして、それをベースに構想案が、皆様の意見を踏まえていらっしゃると思っております、出ております。

一堂に集まって議論するのは今回が最後の会になると思っておりますので、今日も、構想案についていろいろ御意見をいただければと思っております。

よろしくお願いいいたします。

(2) 事務局説明

事務局より、アジア・アジアパラ競技大会に関する提言の中間報告について、配付資料をもとに説明。

(3) 議題

奥野座長

アジア・アジアパラ競技大会に関する提言の中間報告について説明いただきましたけれども、それでは順番に御意見をひとあたりいただければと思います。

鮎京委員

いつもの順番になりますが、鮎京委員からお願いできますでしょうか。鮎京でございます。

事務局からの御説明を聞きながら、アジアの子どもの未来のためにというものの英語訳をどうするかというのは、大会の理念に非常に関わって、これがいいということは今すぐ言えないんですけども、やはりよく考える必要があると思いました。

なぜかという、まさしくこの間のイスラエルとガザの戦争の中で、テレビを見ていても、子どもが瓦礫に埋まりながら、ほこりをかぶって真っ白な顔で次々と死んでいく。ハマスをやっつけるためには、一般人誰でもやっていいんだという考えでやると、結局、弱い者が死んでいくという図が、日本人あるいは世界の人々の目の前で起こっているわけで、これをどうするかということは大変難しいことではあるけれども、そういう世の中であってはならないんだという深い祈りを持った大会にしなければいけないというのが私の意見であります。

第1回の懇談会のときに、私は、大学及び大学の学生、こういう人たちの熱意に依拠した大会にしなければいけないということを強調いたしました。

この大会というのは2つの側面があって。1つは、スポーツを通じて絆をつくる、もう1つは、アジアの人々の絆をつくるという、スポーツとアジアの人々というのが2つのキーワードになっていると思います。

実は、この2つが日常的に存在する場所というのが大学でありまして、言うまでもなく、大学はスポーツの様々な活動が行われているし、また、留学生という形で、多くのアジア諸国から学生が来ておって、日常的にスポーツとアジアのある空間ということになります。したがって、今回の大会を迎えるに当たって、大学の様々なメンバーたちの力を引き出すことが決定的に大事だということを改めて申し上げたいと思います。

新聞で拝見しましたが、そういう観点に基づいて、愛知県、さらには名古屋市さんでも、愛知学長懇話会との協定を結ぶということで大学への働きかけを強めているし、また、愛知学長懇話会の座長である杉山名古屋大学総長、及び名古屋大学に事務局があるので、そういうところにも着々と働きかけが行われているということまでは、私は名古屋大学へ行って聞いてきたので知っております。

そのように御苦労されているということは認識した上で、1つだけ申し上げますと、先般、1週間ぐらい前に、東海学生陸上競技連盟の会長

をやっている國枝さんという、名古屋大学の副総長やっていた方の話を聞いたら、「連盟にはまだ話が来ていません」と言われたので、そのことについて会合があるので、ぜひ意見として申し上げますということを行いました。

つまり、この人の場合には陸上であります、様々な競技種目によって競技連盟というのがあると思いますので、具体的にスポーツに関わる団体のところまで本当に話が行っているのかどうかということは、実際にこの大会を成功させていく上で大変重要だと思っておりますので、ぜひよろしくお願いしたいということでもあります。

留学生の話はまた後ほどに、機会があれば発言したいと思っております。

ありがとうございます。

どうもありがとうございました。

続いて、高橋委員、お願いいたします。

高橋でございます。

まとめていただきましてありがとうございました。

こうしてまとまったものを見て、やはりこれをどう実現していくかという次のフェーズをぜひ事務局の方には考えてほしいなと思っております。

例えば、施策の方向性や施策の展開とありますけれども、これを具体化する事業にいかにか細かく具体案を提示していくか。かつ、提示していく内容と、恐らくこれからはスポンサーではなくて、パートナーと呼ばれる企業との社会課題解決に向けた共同のアクティベーションということをつなげていくような施策に落とし込めるといいかなと思っております。

また、恐らくこちらの理念を通じた様々な活動は、大会と並行して、ロゴマークや、参加の仕方というものを制定して行われると思っておりますので、このあたりも組織委員会の方々と調整していただきながら、大会全体のメッセージとつながるようにしていただきたいなと思っております。

具体的にどんなアイデアか。これはジャストアイデアではありますけれども、やはり多くのアジアの国々の方が一堂に会する広場というものは必要ではないかなと思っております。選手村みたいなものがないということも含めて、多くの人たちが同じ場所、同じ時間を共有するような空間づくりというのをぜひ考えていただきたいなと思っております。

できるかどうかわかりませんが、例えば久屋大通公園などは40数か国の模擬店が常に全部出ている。市民が40数か国の食事をしたり文化を見たりできるような、ミニかもしれないけれども、大アジア博覧会のような空間を持たないと、みんながばらばらになっていると、共通した気持ちが特に県民や市民に伝わらないのではないかなと思っております。

ぜひ具体的な落とし込みまで頑張っていただきたいなと思っております。

以上です。

奥野座長

高橋委員

奥野座長

どうもありがとうございました。

谷本委員

続きまして、谷本委員、お願いいたします。

ありがとうございます。谷本です。

杭州アジア大会では、日本選手団のサポートをさせていただきまして、現地に3週間ちょっと滞在しておりました。選手たちに声をかけてくださった皆様、どうもありがとうございました。東京大会のときは応援されるということもなかったもので、選手たち、非常にうれしそうな顔をしておりました。ありがとうございました。

今大会の感想も兼ねて、少しお話しさせていただきます。

行かれた皆さん、多分皆さん同じ実感を持たれたと思うんですけども、この後、杭州大会を引き継ぐというハードルの高さのあたりは、本当に快適な選手村、また、輸送、大会運営においてもすばらしかったなとは感じているんですけども、特に選手目線で今大会がこれまでの大会と違うなと思った点は、ボランティアの方々が、大学生を主体に非常によく働いてくれました。24時間ほとんどの時間を笑顔で過ごす。笑顔で迎えて笑顔で選手たちを送り出す。これまでの大会において、笑顔はもちろんあったんですけども、四六時中笑顔でボランティアの方々がいてくださった大会というのは恐らく初めてじゃないかなと、誰もが口をそろえて言っていました。

こういった部分からも、大会のハード面はもちろんですけども、ソフトの面まで行き届かせるというのは非常に重要なことなのかなと感じました。組織委員会としてやるべきこと、また、愛知・名古屋の方々がそれぞれできることを、少し役割を与えていくというのも一つなのかなと思います。

また、大会において観戦された方、感じられた方も多いかと思うんですけども、完全アウェイな状態で選手たちは試合をすることになりました。こういった会場の雰囲気というもののあり方を今一度考えさせる大会だったかとも思いますので、こういった部分も検討していく必要があるなと感じております。

今回、特にZ世代の選手たちが活躍しました。こういった選手たちに届けるためにも、同じ世代の愛知・名古屋の方々が同時に同じ心を持って動いてくれるといいなと感じております。

以上です。

奥野座長

ありがとうございました。

藤田委員

藤田委員、お願いいたします。

大分まとまってきて、すばらしいなと思っておりますが、3点お話しさせていただきたいと思います。

まず1点目ですけども、施策の方向性、施策の展開というところ。

課題意識があって、こういうところになってきているんですけども、東京オリパラにしても何にしても、最初のレガシーは、スポーツで何が残るかというところにある。スポーツレガシーと言われていてんですけども、これを見ると、スポーツに関してその部分が抜け落ちているような気がしているんですね。それが、先ほどの鮎川委員のスポーツ

界に行き渡っていないというところにも表れているのではないかと思います。

スポーツ界だけにといいことではないですが、愛知・名古屋、あるいは日本のスポーツをどう盛り上げていくかという視点がここからはちょっと読み取れないですね。この施策がよくないということではなく、そこは落としちゃいけないんじゃないかなと感じました。

2点目が、施策の展開の中でパラスポーツ体験等による人間の可能性への理解促進というのをに入れていただいています。これは非常にありがたいですけども、恐らく、障害を乗り越えて頑張っているという姿を皆さんイメージされているんじゃないかなと思います。

それはそれで大切なことだと思うんですが、ただ、一方で、ロンドンのパラリンピックのときにはそういうところがあまりにも強調され過ぎて、障害がある人はみんなこれができるんだ、これをやらなきゃいけないんだというイメージが強く植えつけられてしまって、一般の障害のある人は、あいつは結局何もできないじゃないかと、そういうラベリングをしてしまったという調査結果がかなりたくさん出されています。

これがよくないのではない。最初の、多くの人たちの注目を集めるためには大事な方法だと思うんですが、それに加えて、障害を乗り越えてどうかというだけではなくて、スポーツは、ちょっと工夫すれば高齢者であろうが障害のある人であろうが、みんながシェアできて楽しめる素材だということとか、一緒にやることで、工夫してやることで人と人をつないでいくツールになるんだというようなところも併せて展開していただけると、そういう目標を立てていただけるといいんじゃないかなと感じました。

最後、3つ目ですけども、最初のところで社会が抱える課題というのが大きくどんと出ていて、大会に期待される役割というところにつながっていくんですけども、報告書のフレームとして、少子高齢化とか子どもの貧困とか、国家や民族間の紛争というのにこの大会がどう貢献するのかというののいつの間にか消えてしまっているような気がします。なので、どういうふうにつながっていくのかというのが見えるような説明が必要かなと。

1つのスポーツの国際大会をやったからといって、全てが解決できるわけではないので、それはそれとして、今回はここを狙っていくという説明とかいったものがあつたほうがいいのではないかなと感じました。

以上です。

奥野座長

ありがとうございました。

来田委員、お願いいたします。

来田委員

まとめていただきまして、ありがとうございます。

随分と形になってきていますし、東京大会のときに見られなかったことも入れることができるようになったかなと拝見させていただきました。

その上で、3点です。

1つは、鮎京委員も触れられた英語の問題です。

これが、アジアの子どもというふうに、子どもたちの居場所をアジアに限定するような英文になると、ちょっとそれでは違うんじゃないかなという印象が実はあります。ですので、子どものためのアジアの未来という、子ども自体、地球上にいる子どもたち全体を視野に入れるような英文のニュアンスが出るというのかなという気がしています。

私はネイティブではないので、英文になるとどういふニュアンスが出るかというのは答えを持っておりませんが、そのあたりを意識していただくと、オリンピックムーブメントのアジアでの展開ということにもきちんとつながってくるのかなと思っています。

2点目は、藤田委員が、スポーツにちゃんとレガシーを残すということをおっしゃったんですけれども、そのことは、実は、裏を返せば、スポーツに興味のない人をどのように巻き込んでいくかということでもあると思います。

スポーツに興味のない人たちにも関わっていただけるような、あるいはアジア大会は楽しいねと言われるようなという意味では、高橋委員がおっしゃった久屋大通に博覧会をつくっていくような、何でこんなにアジアの国々のブースがいっぱいあるんだろうと思ひ、アジア・アジアパラ大会にも関心を持つようになってもらえるようなフェーズを作っていくというようなことも非常に大事じゃないかなと思います。

大抵の場合、テレビで日本人選手が活躍しているから大会をやっているらしいよという流れになりがちなので、せめて地元の人たちはそうじゃない流れをつくりたい。アスリートの活躍に交流の契機を作ってもらふことを頼ってはいけなくて、アスリートにはもっと自由に競ってほしいと思います。

そして3つ目ですけれども、3つの理念を支える柱に対して施策の例を出していただきました。これ自体は非常にまとまっていて、わかりやすいと思ったんですけれども、具体的な施策の方向性と施策の展開を支える大切な部分というのをやはり書き加えておくべきなのではないかと思っています。

そうした施策の土台を作るための2つのものを今から挙げてみます。

1つは、やはり公正で透明性のある運営という部分です。それがなければ、こうした施策は全て空中分解してしまうと言っても過言ではない。その姿を私たちは2020年に見たわけですので、それをやっぱりきちんと入れていくべきだろうと思います。

今朝、実は世界陸上の理事会に出ておりました。そこでは、東京都が国際スポーツ大会を開催するに当たっての都のガイドラインというのをつくっていらっしゃる、かなりきちんとした第三者のチェックを4分の1期ごとに入れる。つまり、3か月ごとにきちんとチェックする。理事会で議論していること、あるいは組織委員会の皆さんがつくった文書や手続を、チェック項目をつくって、今回のチェックではこうでした、ここが少し不足していますという指摘を理事会が受けた報告を会議の中で伝えてもらいました。

ですから、やはりそういう土台づくりはきちんと常にやっています、

やっていきますということをこの施策の図の下部に表示したほうがよいのではないかなと思います。

それから、愛・地球博のレガシーとして非常に重要なものの一つが、市民によるボランティアだということが書かれています。その部分がこの中からは消えてしまっています。そうした支えがあること、市民一人一人が自己実現を図っていく場所になって参加できることというのが、実はこの大会の土台となり、大会が終わった後のレガシーになるだろうということと考えますと、市民が積極的に参加をして自己実現を図っていく場所としてこの大会があるということをもう一つ土台に入れてもいいのではないかと思うということです。

以上でございます。

奥野座長

どうもありがとうございました。

私も感じた点を2、3。

この会議の前2回で出てきたいろんな意見を、ポイントをきちんと押さえて整理していただいたと思っています。

その一方で、皆さん、何人かおっしゃいましたけれども、役割、理念、施策の関係、藤田先生のお言葉でいうと、つながりはどうなのか。その辺のところはしっかり、簡潔に理解できるようにしていただけないか。まだ知恵を絞らなきゃいけないんじゃないかと感じております。

それから、今日お示しいただいたようなものは、パンフレットになるかと思えますけれども、これはできるだけ早いうちから発表し、鮎京先生の御指摘がありましたけれども、啓発をきめ細かくしていただくことは大事だと思います。

私もいろんな方からいろんな意見を聞くことができますが、選手村がホテルで分散するとか、水泳が東京開催になるとかいうことに対してネガティブに感じられる方がかなりいらっしゃるし、そうした意見に追随する方もいらっしゃるようであります、その辺の啓発は大事だと思います。

先ほど、杭州大会のきらびやかさの話がありましたけれども、各大会は各国の発展事情を踏まえた上での見せ方をされているわけですね。

ある経済界の人が、杭州大会のあの派手さはすばらしい。名古屋は何かできるのかみたいなことをおっしゃっておられた。「あなた、その胸のSDGsのバッジは何だ」と言ったことがあるんだけど、その国の発展段階を踏まえたやり方というものがある。

中国はあれでいいんですが、それで貧困問題が解決する、SDGsに役立つと私は思わない。愛知・名古屋は将来にわたっての方向性をしっかり示すということが共感を呼ぶ上では大事じゃないかと感じております。

以上です。ありがとうございました。

引き続き、最終的な提言に向けてさらにプラスすることがございましたら御発言いただきたいと思いますが、鮎京先生からお願いできますか。

鮎京委員

具体的な話を何か提案するという事ではないですが、最近、名古屋

大学の留学生担当の教員の人と話をし、私も知らなかったもので、それを御紹介しておきたいと思います。

アジア競技大会は、パンフレットにあるように26年9月19日から10月4日という日程ですね。留学生担当は、これでえらいことになったと。

名古屋大学は秋卒業・秋入学というのをやっていて、卒業は9月の終わりぐらいに、入学式が10月の初めぐらいにある。この大会とほとんど日程が重なっている。日程が重なると、要するに、修了して卒業したアジアの学生が国へ帰るときに、この日程の頃には飛行機の切符が取れないというわけです。さらに、10月の初めに来るのも、飛行機等が非常に混み合っ、うまく来られるかなという。

先生にどうしろとは言っていないし、これは愛知県の問題でも名古屋市の問題でもないんだけど、例えば1か月遅れて国に帰るとなると、その間の滞在費というのが必要になるわけです。あるいは、入学式をどういうふうにするのかという問題があるということだけ、認識の片隅に置いておいていただけるといいな。もし何かいい知恵があったら、ぜひ教えていただきたいということでございます。

奥野座長

ありがとうございました。

高橋委員

続きまして、高橋委員、お願いいたします。

私から特に追加はないですけども、先ほど來田委員が発言されたことに私も賛成で。

東京オリパラの課題は書いてあるけれども、それを乗り越えて我々は新たな仕組みを導入すると言っているのであれば、例えば透明化を高めるシステムの導入みたいなことは書いておいたほうがいいかなと。

実際にそれを作り込むというのを世界陸上さんがされているというのであれば、それをベースに学んで、総合競技大会の場合はどうやってあるべきかというような議論をぜひしていただけるといいのではないかなと思いました。

なので、このつながりのところに、先ほど言った透明化を高めるシステムの導入だとか市民参加のための市民ネットワークとかいうことがベースにあるんだよ。これを図に落とすのはなかなか難しいですけども、座長が言ったような、ちょっと知恵を絞っていただいて図に落とし、それが具体的な文言と組織委員会内に整備されるという流れをぜひつくっていただきたいなということで、先ほどの皆さんの御意見に賛成したいと思います。

以上です。

奥野座長

ありがとうございました。

谷本委員

谷本委員、お願いいたします。

ありがとうございます。

奥野座長の先ほどの、大会ごとにその国の発展の色が出るということですけども、愛知・名古屋の大会の色というもの、強みというんですかね、それがもう少し明確になるといいのかなと思いました。

杭州アジアの前に、成都ユニバーシティゲームズというものが同じ中国でありまして、同じオリンピック規模の大会でした。そのときは、基

本的にはテクノロジーというものをぼーんと打ち出しているの、大会もそうですけれども、選手村の中にもそういったものが多く配置されていたり、また、パンダ基地というものを持っていることもあって、パンダというものを全面的に押し出している。大会のキャラクターをどんと打ち出すという部分では、非常におもしろい大会だな、印象にも残る大会だなと思いました。

今回、選手村がないということもありますので、一体感を生み出す何かを創造していくというのは非常に必要なことだと。アスリート同士が共有していく部分でも重要かと思いました。

そういった意味で、先ほど、アスリートの視線がちょっと抜け落ちているんじゃないかというところがありました。東京大会のときもそうですけれども、スポーツの話題に欠ける時期が一時期ありまして。やはりこういったところはアスリートとして発言していくべきだったなということは反省しているんですけれども、そういった意味では、アスリートの好記録、新記録ではないですけれども、そういったものであったり、非オリンピック競技というものをもう少し世の中に周知したり、アスリートセンタードという部分で、しっかりとアスリートのサポートをしていくという部分を載せていただけると、スポーツにしっかりと力を入れている大会ということがアスリートにも届くのではないかなと思っています。

以上です。

奥野座長

ありがとうございました。

藤田委員

続いて、藤田委員、お願いいたします。

先ほど言ったことと重なる部分があるかもしれないですが、新たな理念が出てきて。それっていうのは、愛知・名古屋が目指すべき社会のあり方でもあると思うんです。アジア大会・アジアパラ大会がそれにどう貢献できるのかをもうちょっとはっきりと示したほうがいいと思いました。これが1点目です。

それからもう1点だけ。実は私、パラの関係で、ずっとパラ競技等の認知度調査をしています。その年々で、そのとき話題になっていることも併せて調査をしているんですが、前回、去年の12月は、「愛知・名古屋でアジア大会・パラ大会が開かれることを知っていますか」と聞いたら、5%しか知っている人がいなかった。これは、オリパラの招致が決まった頃の、ゴールボールという競技とかパラバドミントンという競技の認知度と同じぐらいですけれども、それをどう高めていくか。

施策の展開のところで、一般企業とか市民がどう関わっていくかというのがまだよく見えていないと思います。行政、スポーツ界も当然ですが、それに加えて市民がどうそれぞれの施策に関われるのか、あるいは企業がどう後押しするのか、どう関わるのか。利益が絡むことですから、一社一団運動は難しいかもしれませんが、そういうのもあるかもしれないし、様々な教育プログラムを、企業が、お金であれ人であれ支援していくというプラットフォームも考えられるかもしれない。

全体的に民間の力が関わってこない、盛り上がりというか、認知度

も上がってこないんじゃないかなと思いますので、一般市民、あるいはボランティア組織とかNPOとかいったものも含めてどう事業に関われるかが見えると、あるいはそういうことを想定して事業を展開していただくといいのかなと思いました。

以上です。

奥野座長

ありがとうございました。

来田委員、お願いいたします。

来田委員

今からお話するのは、ここに落とし込むというよりも、この先ということで、参考にしていただければと思います。

まず1つは、いろんなところで国際スポーツ大会が社会課題の解決に貢献するというような文脈が出てきていて、今回の方針案の中にもそれはかなり色濃く反映されていると思います。

ただ、そのときに、地域の人たちがどういう社会課題を重視しているのかということと全然視野に入れないまま、お題目のように掲げても、実は市民に響かないというところがあるかなと思います。そのあたりが、札幌市の招致活動に絡んでの札幌市民の反応にも見られたことではないかと私は思っています。

2日ほど前に、電通総研による「2023 サステナブル・ライフスタイル意識調査レポート」が公表されました。それは、いろんな国の人たちが何を社会課題と考えているのか、重要視しているのかということが示されていたり、あるいは世代別に分析されていたりというもので、御覧になった方もいらっしゃるかもしれません。

日本の場合だと、Z世代は明らかに人権問題に関心を持っているんですが、トータルで見るとそうではないというような、社会課題をどのようにとらえるかということについての世代ごとの特徴もかなりあるのかなというふうに思います。

例えばジェンダー平等でいうと、日本はアジア中の後進国です。この後進国性を日本人が解決するために取り組む場としてアジア・アジアパラ大会をきちんと意識していくことが重要だと思います。今日も、この席を見ると、一見した感じでは男性の数が圧倒的に多く、多様性に欠ける状況になっています。大会が終わったときにこれが変わっていくようなきっかけをつくっていくということがすごく大事だと思います。ジェンダー平等をはじめとする社会課題の中でも、地域の人たちが抱えている課題というのに視野を置いていただくといいのではないかなと思います。

それから2つ目、何人かの委員の方もおっしゃった、選手村がないということがすごく心配されています。元アスリートの視点からいうとそうなんだなということを感じます。

人が集うということ、アスリートをサポートということ、セキュリティに一定の確かさをもたらすということ、選手村にはこの3つの機能があるんですけども、この3つの機能をどうカバーするような形で愛知と名古屋という自治体が取組んで組織委員会をサポートすることということも視野に置いていただく必要があるのかなと思いました。

奥野座長

以上です。
どうもありがとうございました。
私も数点。
最初は、英訳の問題です。

日本語ではいい理念だなと思っていますが、読んだときに、アジアの未来、子どもの未来という読み方と、アジアの子どもの未来の両方できるんですね。これを読んだ人の考え方、受け取り方がいろいろあると思うんですが、英語にすると、来田先生がおっしゃるように、これでいいというのがまだ言えない感じなので、事務局で少し時間をかけて考えていただければと思います。2つの読み方がぶつかっていると感じます。

それから、ダイバーシティ&インクルージョンはどう表現するのがいいのか。ダイバーシティ&インクルージョンと書いてあるところやD&I、多様性と包摂性、いろんな表現がこの短い中にも出てきますよね。どれかにそろえたほうがいい。細かい話ですが、今からブラッシュアップすればいい。

オリンピックなどもそうですが、アジア大会を見るときに、1つはやっぱりスポーツですが、もう1つは地域づくりにどのくらい貢献があったかが大事だと思います。

私は国土政策、地域政策に関心を持ってきたものですから、どうしても地域づくりにどのくらい貢献したかが頭にあって、この2つを軸にしてまとめていただくと私にはわかりがいいですが、またほかにもいろんな軸があるということも、それはそれで理解できます。

最初に戻ってしまいますが、理念、施策といったものをどういうふうにとまとめていくかというところを、またこれから考えていただきたいと思います。

今回が皆さん一堂に集まって議論していただく最後の機会にはなりますけれども、これから最終策定に向けて、個別に御相談を申し上げながら仕上げていくことになると思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

まだ時間がございますので、追加して意見がございましたら、どうぞ御発言ください。

高橋委員

高橋です。
そういう意味ではなかったもので。私も最後まで、完成するところまでお手伝いしたいと思っています。

先ほどの透明化を高めるシステムの導入というところも含めて、やはりある程度具体化する施策に関しては、指標とか、評価の指標をある程度定めて、それを市民に公開していったら、もうあと2年しかないわけですから、四半期ごとにどれくらい変わっているのか変わっていないのかのあたりを示すといいのではないかなと思います。

レガシーという言葉が東京オリンピックでは言われましたけれども、結局、コロナ禍においてデータが全く取られていないから、本当にこれがオリンピックの影響だったのかどうかなんてなかなか評価できない

です。

せっかくであれば、アジア・アジアパラの愛知・名古屋大会に関してはこんな変化が今起きていますよということを同時並行的に市民に伝えていくということが、市民の参加意欲にもなるのではないかなと思うので、施策とうまくパラレルに指標をつくって、それを公開するみたいなこと。これがまた大会費用の増大になるのかもしれませんが、ぜひやっていただきたいと思いますし、そのあたりは、多分地域の大学とかの協力も得ながらできるのではないかなと思いました。

以上です。

奥野座長

ありがとうございました。

私もいろいろな計画に関わってきていて、計画をつくる時には、特に KPI をしっかり持つておくことが、理解の浸透に大事なことだと思います。

今、時間が切迫していて、KPI というのはたくさん候補を挙げてきて、その中でポイントは何かということを絞っていくわけですが、事務局も大変だろうと思いますけれども、高橋先生御指摘の点、KPI 的なものをしっかり持つておくということが、後の評価だけではなくて、進める上にも非常に大事だと私も感じております。

他ございましたら、どうぞ。

藤田委員

私、英語力が本当に低いんですけども、そんな私でもわかるように、あと、皆さんがどういうふうにも読めるということをおっしゃったので、文章というかフレーズにせず、例えば「For the Future and Children and Asia」とか、誰でも、どこでもつなげて読めるように、読んだ人がどう解釈するかという余地を残しておくのも一つかなと思いました。

奥野座長

「in」はやめて「and」にするわけか。

また議論していくうちにいろんな問題が出てくるかもしれない。

他、いかがでしょうか。

事務局のほうは何か。今までの議論をお聞きになって、包括的なプライというのはございますか。特にお願いするということではありませんが。

どうぞ先生。

高橋委員

水泳競技、馬術競技の東京開催もあるということですので、ぜひ東京との前向きな、さらなる、1足す1が3になるようなコミュニケーションを狙っていくみたいなことをちょっと入れたほうがいいかもしれませんね。愛知・名古屋で我々がやると言い過ぎずに、多くのみんな、東京も含めてやっていくんだというメッセージもあるといいんじゃないかなという。

そうすると、東京エリアが入ってくるだけで、このアジア大会はかなり変わっていくんじゃないかなと。勝手に、試合会場だけ渡したよという立場じゃないほうがいいんじゃないかなとちょっと感じましたので、その辺の書き方をどうしたらいいかと思うんですけど、ぜひ入れていいと思いました。

奥野座長
來田委員

ありがとうございました。

KPI とまではいかないと思うんですけども、1994 年広島アジア大会の 25 年間のレガシーを検証する研究論文が 2020 年に出ているんですね。それは、市民活動がどのように活性化されたか検討したものでしたので、後でどなたかにメールでお送りしますけれども、今もなお、大会のことをチェックしているような視点を参考にすることも一つかなと思いますので、ぜひ活かしていただければと思います。

奥野座長

ありがとうございました。

まだお約束の時間は残っております。御発言ございましたら、どうぞ御遠慮なく。

これから取りまとめに当たって、ポイントを随分突いた、頭を悩ませないといけない御指摘をいただきおまして、これぐらいいただければ十分かなという感じもします。

全部に応えるのにどうするのかと正直に思っているところでありますけれども、これからのスケジュールについて、事務局お願いできますか。

事務局

今後のスケジュールについて御案内いたします。

今回いろいろいただきました御意見を集約するとともに、今後、個別に御意見を伺うなどして、次回開催までに最終的な提言を取りまとめたいと思います。

次回の第 4 回懇談会につきましては今年度中に開催することとし、取りまとめた最終的な提言を知事・名古屋市長に手交するような場にできれば考えております。

第 4 回懇談会の詳細な日程につきましては、また改めて調整させていただきますので、よろしくお願いいたします。

奥野座長

ありがとうございました。以上がスケジュールです。

今日は、まだ 1 時間ちょっとしか経っておりませんが、皆さんから非常に密度の高い御発言を整理していただいたと思います。

これから取りまとめに入っていくわけでありまして、先ほどもお願いいたしましたけれども、事務局から皆さんに個別にいろいろ御相談があるかと思っておりますので、引き続きその点よろしくお願い申し上げます。

最後の取りまとめについては、事務局と私に一任していただければと思いますが、よろしゅうございますか。——ありがとうございました。そうさせていただきます。

さらに追加の御発言、搾り出せと言っているわけではないですが、よろしゅうございますか。

ありがとうございました。

本日の議論は以上にさせていただきます、事務局にお返しします。ありがとうございました。

(4) その他

愛知県
スポーツ局長

活発な議論ありがとうございました。

最初に、鮎京先生から祈りを持った大会にしたいというようなことを伺いまして、アジア大会、アジアパラ大会というのは出発点がそういう

ところでございましたので、いろんところで皆さんが交流して幸せになるような大会にしなきゃいけないんだなということを思いました。

谷本先生からは、会場の雰囲気よかったというような話でございますので、やっぱりそういったおもてなしというところをしっかりとやっていくのが成熟した国でやる大会になっていくのかなど。私も中国大会を見て、大変よかったですけれども、海外の方との交流が、私は他の国の方にほとんど会えなかったものですから、そういうことができたらいいなというようなことを、今日いろいろ伺って思いました。

他にも、來田先生から、人が集うということもありまして、そういうキーワードをいろいろいただきましたので、座長といろいろ相談させていただきながらまとめていけるかなど、年越せるかなという不安をちょっと持ちながらやっていきたいと思っておりますので、また御指導をよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

**名古屋市
企画調整監**

本日は活発な御議論を本当にありがとうございました。

確かに中国の杭州大会は非常にゴージャスな大会でございましたけれども、愛知・名古屋大会は質素で合理的、そして、持続可能なということを常々申しておりますので、中国とは違った大会にしていきたいと考えております。

我々としても、おもてなしの部分、ボランティア部分に関しては非常に言えるところがありましたものですから、そういったところについてはしっかり見習って、持続可能な大会にしていきたいと思っておりますので、引き続き御指導をよろしく願いいたします。

以上でございます

事務局

本日は、長時間にわたりましてありがとうございました。

委員の皆様方からいただきました貴重な御意見を踏まえまして、今後とも検討を進めてまいります。

次回の懇談会につきましてもよろしくお願い申し上げます。

以上で、第3回アジア・アジアパラ競技大会に関する懇談会を終了します。どうもありがとうございました。